

# 豊郷町隣保館だより

2025年1月24日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 No.250

小さな灯に、ありったけの大きな思いを込めて「あなたを忘れない」を伝える人たち。



『あの日 あのときを忘れない』  
『阪神淡路大震災から三十年』  
『灯籠文字は『よりそう』』

一九九五年一月十七日、早朝五時四十六分、阪神・淡路大震災が発生、今年で三十年を迎えました。

あれから長い年月が過ぎたと感じている人も、あつという間だったと感じている人、そして、まだ生まれていなかった人もおられることと思います。

神戸・三宮の東遊園地には、震災で犠牲になった人たちの追悼や復興を願うため、二〇〇〇年一月十七日に建立された「一・一七希望の灯り」があり、碑文には次のように刻まれています。

『一九九五年一月一七日午前五時四十六分  
阪神淡路大震災 震災が奪ったもの  
命 仕事 団らん 街並み 思い出

：たった一秒先が予知できない人間の限界…  
震災が残してくれたもの

やさしさ 思いやり きずな 仲間

この灯りは奪われたすべてのいのちと  
生き残った私たちの思いをむすびつなぐ』

その灯りで灯される三十年目の灯籠文字は、  
『よりそう』です。

年月の経過と共に震災を経験していない世代が多くなっていますが、「被災地や被災者のことを忘れずに、ずっと心のなかで寄り添うことができる」という想いが込められています。

能登半島地震から一年、そして、三月十一日は東日本大震災から十三年となります。

『あの日 あのときを忘れない』という想い、そして『よりそう』という気持ちを胸に、被災地に想いを馳せ、それぞれの今を見つめることも大切なことではないでしょうか。